

令和7年度 学校評価表

品川区立小山小学校

校長

森田 佳之

小山小学校校区教育協働委員会

委員長

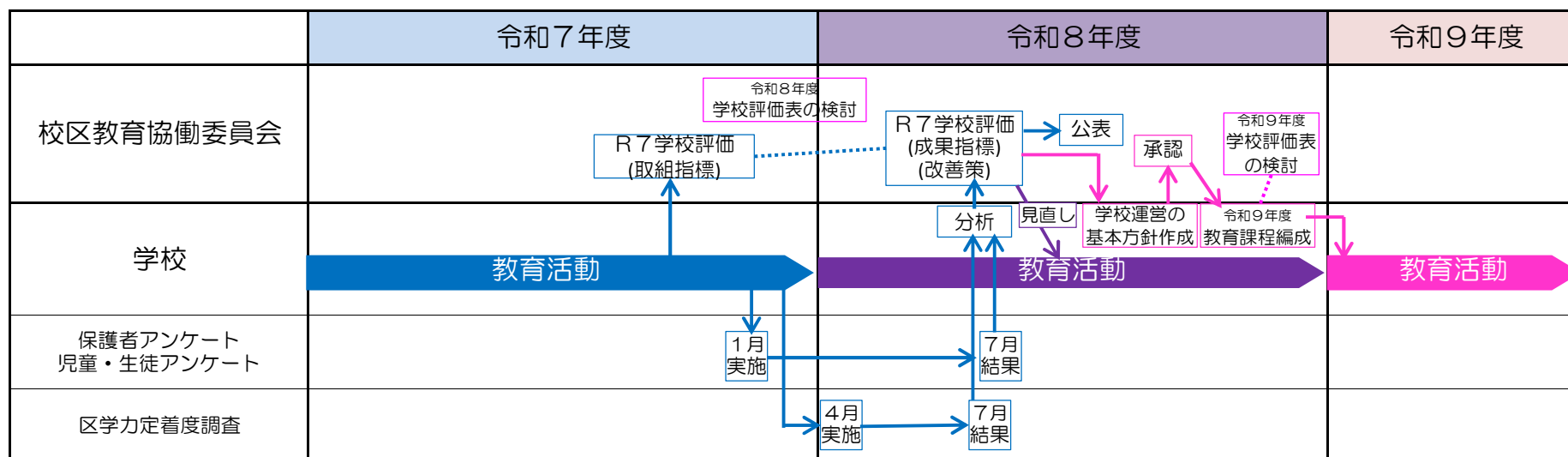
油布 佐和子

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標		品川区教育要領に基づき、各教科の年間指導計画を着実に進める。 1. 基礎・基本的な事項の指導 学習規律を身に付けさせ、「分かった・できた」と児童が感じられる授業を進め、基礎学力の定着を図る。 2. 発展的な事項への指導 基礎基本の充実とともに、言語活動の充実や思考力・表現力・コミュニケーション能力の伸長に向けての授業改善に取り組む。 3. 指導力の向上 一貫教育を見通し、教材・教具（ICTなど）の工夫をしたりプログラミング的思考を育む指導を行ったりする。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	品川区学力定着度調査 校内平均正答率で目標値を上回る教科・項目の割合を75%以上にする。	品川区学力定着度調査において、各教科の目標値平均達成率は、国語85%、算数79%、社会88%、理科77%であった。このことから、概ね達成と言える。ただし、学年によって目標値を下回る内容も見受けられた。	B	品川区学力定着度調査では、算数等、内容によって目標値を下回ったものがあつたため、分析をして、基礎基本の定着を図るために習熟の時間を確保する。 学習へ向かう気持ちや態度の切り替えは早くなってきたが、学習用具が揃わなかったり、タブレットの使用ルールが統一されなかったりしたので、教員の指導や保護者への周知を徹底する。
	学習規律を徹底させ、学習に向かう姿勢を培う。また、指導方法や指導形態、教材・教具、板書の工夫、ICT（タブレット端末）の活用を行い、学力向上を図る。	休み時間と授業時間の切り替えを意識させたことで、学習に向かう姿勢が身に付いた。タブレット端末を使って問題を解くなど、くり返し学習する機会を作って、学力向上の取り組みができた。	B	
②	「授業が楽しい」と思う児童の割合を85%以上にする。	校内で取った児童アンケートによると、「授業がだいたい分かる・よく分かる」と答えた児童が96%と高い値であった。このことから、教師は児童が「分かった！」と思える授業展開を工夫し、「楽しい授業」を行っているものと考えられる。	A	「授業がよく分かる」ことは「授業が楽しい」に繋がる。教師は工夫した授業展開を継続していく。 「本物に触れる」授業が実施できていない教科もある。教師は、既存の学習計画に縛られず、追求していく必要がある。 読書活動、英語学習だけでなく、問題解決のために教科横断的な指導計画を考えていく。
	校外学習や社会科見学・外部講師による授業等で本物に触れる機会をもつ。	生活科や社会科の学習では、地域の商店や会社等の協力を得て、実際の様子を見学したり、インタビューをしたりすることができ、本物に触れることで得られる感動的な学習ができた。	A	
	読書・ALTやJTEとの英語学習・タブレット端末を用いた学習を通し、思考・表現・問題解決等の力を育む。	読書の時間を計画的に確保し、読んで思考したことを、ポップや紹介カードに表した。それを互いに読み合い、考えを深めることができた。	A	
③	家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上にする。	校内で取った児童アンケートによると、「宿題はだいたいやっている・いつも必ずやっている」と答えた児童が97%と高い値であった。児童の中に、「宿題はやるべきこと」という意識の高さがうかがえる。	A	家庭学習に取り組む意識は高いことから、自ら課題を見付け、調べたり、学習したりと個々の興味・関心によって進める学習方法を指導していく。 地域人材を活かした品川地域未来塾や補習教室の内容や対象児童、実施回数を見直し、基礎基本の定着を図る。
	保護者との連携を図り、放課後補習教室等、復習の時間を確保し、基礎基本の徹底を図る。	月1回程度、学習内容が定着していない児童を中心に補習教室を実施し、基礎基本の定着を図った。	B	
	品川地域未来塾を活用し、個々の能力に合わせた学習を行わせる。	地域人材を活用しながら、個に合わせた教材を解き、児童が「できた！」と自信を付けることができた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		小中学校が連携し、「協力し助け合う子」を育てることに取り組む。 荏原第六中学校・第二延山小学校と目指す児童・生徒像を共有し、市民科の学習や生活指導にあたる。 1. 小中で確認した学習規律・生活規律をもとに、確かな学習指導と生活指導を進める。 2. 特に前期1～4年では、「自己管理」「人間関係」を、中・後期5～9年生では「自治的活動」「人間関係」「企画・表現」の能力の伸長を重点とする。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	基本的生活習慣の徹底を図り、学校が楽しいと答える児童の割合を全体の90%とする。	校内で取った児童アンケートによると、「学校がまあまあ楽しい・とても楽しい」と答えた児童が95%と高い値であった。	A	気持ちの良い挨拶については、週の目標にしたり、機会をとらえて指導したりしたが、児童全員ができるようになっていない。そのため、全校朝会での講話で扱ったり、朝の挨拶運動で児童自身に挨拶をすると気持ちよく過ごせることを実感させたりしながら、徹底を図る。
	「生活のきまりと育てたい児童像」をもとに、挨拶や礼儀、場に応じた行動などについての指導を教職員で共通理解し、共通の指導をする。	判断に困ったときには「小山小のきまり」に立ち戻って指導したり、生活指導主任に相談したりし、共通指導を行った。	B	
②	ルールを守って学校生活を送っている児童の割合を90%以上とする。	校内で取った児童アンケートによると、「学校のきまりをだいたい守っている・いつも守っている」と答えた児童が97%と高い値であった。	A	「小山小のきまり」については、入学時に配布しているが、毎年の配布はなかった。保護者や児童が「小山小のきまり」を意識して生活できるよう学校ホームページに掲載するなど、周知方法を考え、学校と保護者が同じ意識で児童へ指導できるようにしていく。 キャリアパスポートの使用については、年間を通して、保護者との連携が必要である。計画的に運用していく。
	規範意識を育むための指標として「小山小のきまり」を設定、保護者や地域にも公開し、理解を得られるようにする。	「小山小のきまり」を各教室に配布し掲示している。また、保護者と共通理解するため、「小山小のきまり」の見直しを図った。	B	
	キャリアパスポートを使って、自己実現を目指すようにする。また、家庭学習等を通し、学習内容を保護者が確認し、共に成長を支えていけるようにする。	市民科の時間、キャリアパスポートを使用し、保護者へは学年通信等で学習内容を伝えとともに、児童への励ましの言葉や感想を記入してもらうなど、より良い児童育成を図った。	B	
③	学校行事を有意義にとらえる児童の割合を85%以上にする。	校内で取った児童アンケートによると、「学校行事をやり遂げることがだいたいできた・できた」と答えた児童が98%と高い値であった。	A	児童自身が「学校行事をやり遂げた」満足感が得られる行事を実施できている。どの行事においても、児童が目的意識をもち、学習意欲を高めながら取り組む学校行事を継続していく。
	コヤマニピック、展覧会、縦割り班活動や小山まつり、品川コミュニティ・スクールDAYなど、児童が主体的に活動する場を意図的に組み込む。	行事ごとに、児童に任せる部分や意見を取り入れる部分を意図的に作ってきた。6年生を中心に主体的に進める姿が見られ、児童に「やり遂げた」と満足感をもたせることができた。	A	
	行事後の振り返りやアンケートの実施により、児童自身が自分の成長を振り返る機会を作る。	全学年で、行事ごとに振り返りを行い、教員がコメントを書き加えるなど、児童のがんばりを価値付けし、評価した。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		小・中学校が連携し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、体力の向上を図る。 「心身ともにたくましい子」を育てることに取り組む。 1. スポーツトライアル、縄跳び、持久走週間に積極的に取り組ませる。 2. 体への関心をもたせ、健康な心身をもつ児童を育てる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	体力テストで全国平均を超える項目を90%にする。	3年生以上では、どの項目も全国平均と同等かそれを上回る結果であった。1, 2年生では、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳びで全国平均を下回る結果となった。	B	どの学年もスポーツトライアルに取り組み、昨年度の体力テストの結果から、本校児童が苦手とする動きを中心に運動能力を高める努力をした。ただし、これは継続して行うことで、児童の運動能力が高まるので、体育の授業の中でも意図的に継続して取り組ませていくようにする。 また、今年度の体力テストの結果から、授業の導入で鬼ごっこなどを取り入れ、瞬発力や持久力を高める運動を行っていく。
	縄跳び・持久走・スポーツトライアルにを中心に、運動の習慣化を図り、中休みや昼休みには、校庭で遊ぶことを推奨する。	意図的計画的に運動する機会を作り、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を基に本校児童が苦手とする動きを絞り、スポーツトライアルを通して高める実践を行った。	B	
②	自分の健康について考えることができる児童を85%にする。	校内で取った児童アンケートによると、「自分の健康を自分で守ることがだいたいできた・できた」と答えた児童が96%と高い値であった。	A	保健給食委員会の働きかけや学校栄養士による食育指導などにより、自分の健康を自分で維持する意識や食への関心を高めることは成果としてあげられる。今年度、がん教育については、6年生の保健体育では扱ったが、校医や学校薬剤師等の協力を得ての実施はしなかった。来年度以降、実施できるように計画していく。
	手洗い等で感染症を防ぐことや、がん教育の場の設定をする。	咳が出るときは、マスクをしたり、外遊びから室内に戻ったら手洗いをしたりする習慣付けができた。	B	
	給食・保健体育、生活科・家庭科等で食や健康な体作りへの関心を高める。	給食・保健指導の他、教科指導の中でも食や健康について、1年生ではとうもろこしの皮むき体験を行ったり、2年生では品川かぶを育てたりと、自分の生活と結び付けながら考えさせることができた。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		いじめにより、児童・生徒が自らの命を絶つという事件が後を絶たない。小山小はこの事態を深刻に受け止め、教職員一同、改めて問題の重大性を認識し、(1)「いじめ」はどの子どもにも、どの学校にも起こり得るものであること、(2)「いじめ」は重大な人権侵害であること、(3)「いじめ」は決して許されない行為であることを理解して、以下の取組を進めていく。 1. いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する。 2. 問題を隠さず、教育委員会・関係諸機関・家庭・地域と連携して対処する。 3. 人権教育を推進し、いじめの未然防止に努める。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめ防止ツールや日常の観察、教職員の情報共有によって、いじめの早期発見に努め、発見時には組織的な対応をし、再発させない。 児童には、人間関係の作り方を学ぶ機会を設定する。	毎週金曜日の生活指導夕会により、児童の情報共有を行い、いじめ対策委員会で素早くいじめ認定をして、組織的な対応を行った。 市民科では、「セカンドステップ」等のソーシャルスキルトレーニングを通し、人間関係を学ぶ機会を設定した。	A	教職員間での情報共有により、複数の目で児童の見守りができたことが、児童の不安や悩み、心の痛みを早期に解消することに繋がった。また、併せてソーシャルスキルトレーニングを行ったことで、児童が良好な人間関係を維持する力を身に付けた。
	いじめのない学校を作るために、「デイケン」「NiCoLi」「いじめDアンケート」「学校風土調査」や金曜日の生活指導夕会等、教職員間で情報共有し、組織的な対応を進める。	デイケンを毎日確認し、いじめDアンケートによる相談に速やかに対応し、解決に向けて細やかに取り組むことができた。	A	
②	いじめを未然に防いだり、嫌なことから逃れる方法を具体的に知ったりして、友達と関わるのが楽しいと答える児童を全学年90%以上にする。	校内で取った児童アンケートによると、「友達とのかかわりがまあまあ楽しい・とても楽しい」と答えた児童が96%と高い値であった。	A	いじめ防止授業により具体的に自分の心や体を守る方法を学んだが、いじめがない学校には至っていない。そのため、機を逃さずいじりがいじめに発展してしまうことなど、個々の児童に指導をしていく必要がある。
	いじめ防止授業を年3回実施し、「シンキングエラー」や「や・は・た行動」「学校風土の構築」等を児童に理解させ、実践していく。	児童の実態に即したシチュエーションを選択し、いじめ防止授業を行った。これにより、児童は自分の中に存在する「シンキングエラー」やいじめから逃れる方法を具体的に学び、習得した。	B	
	交流活動を推進することで、児童のよりよい人間関係作りを構築する。縦割り班で行うなかよしタイム等に主体的に児童が取り組む。	縦割り班活動を通して、下級生を思いやったり、上級生に憧れたりする姿が見られた。	A	
③	安全教育や危機管理能力を高める指導を継続する。	月初めの安全指導により、校内、校外での危険を理解し、自らの安全を確保することの大切さを意識させた。	B	校内での安全な過ごし方や登下校時の歩行、放課後の遊び方など、計画的に指導をしているが、けがや事故がなくなったわけではないため、家庭にも働きかけながら継続して指導を続けていく。
	生活指導部が中心となり、職員連絡会、夕会、場合によっては放送等を用い、全校で統一した指導の徹底を図る。	全教職員が同じ認識で指導を重ね、休み時間には大人の複数の目で児童を見守り、安心安全に過ごせる環境を維持した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		小山小学校と荏原第六中学校が連携して、品川区立学校教育の目標の達成を目指す。 1. 荏原第六中学校の生徒の姿から高学年のゴールイメージをつけ、目指す児童の姿へ指導を導く。 ①進んで学習する児童 ②協力し助け合う児童 ③心身ともにたくましい児童 2. 2校の教員間では目指す児童・生徒像や発達段階ごとに育てるべき事柄について理解し、指導の姿勢を共通のものとしていく。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	下学年の手本となる6年生を育て、6年生に憧れる児童の割合を90%とする。	校内で取った児童アンケートによると、「6年生はすごいとまあまあ思う・とても思う」と答えた児童が89%であった。	B	鼓笛活動は6年生が5年生に楽器の扱い方や演奏の仕方などを丁寧に教える姿があり、「憧れ」に繋がる活動となった。一方、全校朝会等の演奏活動時に遅れてくる6年生の姿もあり、生活指導も併せて行う必要があった。家庭への協力の呼びかけを行う。 また、鼓笛活動の指導では主に音楽専科と6年生担任が当たったが、本校の伝統的な活動を共通理解し、全教員で指導する体制を整えていく。
	6年生全員での鼓笛活動、1年生のお世話、縦割り班活動等で6年生の心と力を培う。また、下学年が6年生の言動・行動を見て学ぶ場の設定をする。	縦割り班活動や鼓笛活動が大きく影響し、6年生が活躍する姿を見ることができ、下級生に憧れる気持ちが育った。	B	
②	保護者や地域の方に学校の様子を伝えるなど、情報開示を大切にする。	普段の学校生活をホームページに掲載したり、メール配信を活用し情報発信を行った。	B	学校の様子を発信する方法として、正門前の掲示板、学校ホームページ、メール配信があるが、不定期であったため、月に1回など定期的に情報発信に努める。
	ペーパーレス化を推進し、保護者配信メールを活用して、広報活動の充実を図る。	保護者宛での文書類は、配信メールを使い、児童も把握する内容があるときは、紙での配布をすることとした。	A	
	校区教育協働委員会を開催することで、委員の方からご意見等いただき、連携した教育内容を目指す。また、「品川教育の日」等で小中の教員が情報共有する。	学校を外側から俯瞰した意見を取り入れ、よりよい学校づくりを行った。「品川教育の日」では、各校の取り組みを聞き、本校でも実践できる取り組みを得た。	A	
③	しながわ多様性理解・多文化共生を実践していく。	友達や近くの人それぞれのよさや違いを理解する心情を育む授業を市民科を中心に扱ってきた。	B	全学年で多様性理解授業を実施はしているものの、限定した学年でのゲストティーチャーを招いた多様性理解授業であった。全校児童を対象としたり、どの学年でもゲストティーチャーを招いての授業を組んだりしながら、児童にとってより身近なこととして捉えられるようにしていく。
	ボッチャの体験学習を通して、多様性について理解を深める。	5年生において、運動機能に障がいのある方でもできるボッチャを体験し、そのルールや楽しみ方を知ることができた。	B	
	日本の伝統文化を大切にする心を育む一方で、世界の文化や歴史を目を理解する児童を育てる。	3, 4年生において茶道体験を行い、その心得や作法を学び、自国の文化に触れることができた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成